

たなかクラブだより令和2年7月号

例年 7月 は中学校総体で熱く燃えている頃ですが今年 はコロナの影響で大会が中止となりました。学校は 4月 ~5月 末まで休校となり、部活もやっと 6月 末から再開されました。徐々に学校や社会生活も正常になってきていますがコロナは第 2波 が拡大しています。大会の再開はもう少し延びるかもしれません。

鴨宮中学男子チーム

約 1年前の新チーム結成時に「神奈川県新人戦で優勝して全国中学選抜大会出場」を目標に掲げました。結果は県新人戦決勝で優勝目前の大逆転負けで目標達成できませんでした。(写真は準優勝でも笑顔なし) 3月の関東中学選抜大会はコロナのために中止となり、夏の総体で県大会優勝を目指して頑張ってきたが残念ながら中止となりました。選手にとっては、「何かやり残した悔しい気持ち」での卒業となりますが、この気持ちを忘れないで今後の人生に生かして下さい。(下記は皆さんの感想です。仲間と充実したクラブ活動が伝わってきます)

(下間) 中学から卓球を始め、最初はまともにボールを打てませんでしたが、今はかなり成長したと思います。育ててくれたクラブに感謝しています。一番の思い出は県新人戦団体決勝です。結果は 2-3 で負けて準優勝で、みんな悔しくて泣いていました。その時自分はベンチで見ていて悔しくて自分が強くなって戦えるように頑張ろうと思いました。

(伊東) 県新人戦決勝の優勝がかかった 4番に出場し、4セット目 7-2 リードから逆転負けして優勝を逃しました。しかし、先輩たちは悔しかったと思うのに、僕を責めずに励ましてくれました。このことで僕はとても大切なことを学びました。僕はこの時のことを一生忘れないで大切にします。

(涌井) 僕はマイナス思考で、不器用で教わってもすぐにできませんでした。しかし、このメンバーと共に努力する中で卓球の実力もアップし、個人でも県代表になり、チームの主力として頑張ることが出来ました。高校でも卓球を続けたいと思います。

(小林) 団体戦メンバーとして県大会、県外遠征もたくさん経験し、楽しいことも悔しいこともありましたが、このメンバーでやれて良かったです。中学の約 2年半がとても短く感じました。



後列左より 下間・小林・萩野・武内・川口 掘コーチ
前列左より 伊東 (2年) 涌井・高橋・鍛代・浅利

(高橋) 1年間このチームのキャプテンを務めました。楽しかったこと悔しかったことなどたくさんありましたが充実した 1年でした。3年間ご指導していただきましてありがとうございました。

(鍛代) 3年間このチームで皆と一緒にやって来て、うれしい事も悔しい事も色々たくさん経験しましたが、楽しい思い出がたくさんできて良かったです。

(萩野) たなかクラブに入って卓球はもちろん、生活や人間性など、色々なことを学びました。教わったことを高校やその後活かしていきたいと思っています。2年間ありがとうございました。

(武内) 中学から卓球を始めました。チームの仲間でありライバルでもあった皆と充実して楽しくやれたので本当に良かったです。監督やコーチに感謝します。

(浅利) 中 1の 8月にたなかクラブに入会。皆に追いつくために必死で練習し、できなかった動き方や攻め方も分かるようになり個人戦で県大会出場、団体メンバーにも入りました。県新人戦団体の敗戦は残念でした。高校で活躍する選手になりたいと思います。

コロナウイルスに注意

コロナの第 2波感染が拡大しています。今の状況はしばらく続くと思います。クラブの活動は基本的には国の指針に則って行います。皆で注意してコロナ対策をしてコロナにかからないように心掛けましょう。卓球場では以下のことを必ず行ってください。

- ・卓球場に入る時は検温と手指の消毒を必ず行う
 - ・卓球場を出る時も手指を消毒する
 - ・熱があったり、体がだるいなど症状がある人は練習を休む
- 練習中のマスク着用は任意です。

駐車場のお願い

新しくクラブに入った人もいるので改めてお知らせします。

- ・駐車場は 5台分だけです。他の場所に止めないこと。
- ・駐車は前向き駐車をお願いします。(近所からの要請)
- ・送迎、特に迎えの時は混雑しますので注意して下さい。
- ・近所に音に超敏感な人がおり駐車場や外での大声禁止
もし威嚇されて危機感を感じたら警察に連絡してください

夏合宿のご案内

日時 8月 14(金)~16(日)2泊 3日
場所 山中湖村平野 580
民宿 リゾートハウス「リゾートイン愛」

電話 0555-

合宿は 3日間

技術が向上し

水分補給をし

体調を管理し

習するのでかなり
戻れます。
コロナに注意して
にしましょう。

中止



次ページへ 読書感想文



ジュニア A の皆さんに私が書いた本「いつも初心になり勇気を持って夢を追え」を読んでもらい、毎月読書感想文を書いて頂いています。人は良い刺激を受けることで心も技術も成長します。私が卓球で大きな目標に向かって挑戦し、悪戦苦闘しながらそれらを達成してきた経緯やその過程で得た教訓などは、同じ競技を目指す者にとって参考になることがたくさんあると思います。実際に皆さんが書いた感想文を読むと技術だけでなく精神的なことや、本人自身が今まで気がつかなかったようなことに興味を持って読んで頂いていることが良く分かります。そして、読書後にその時に感じた気持ちを文章に書くことでその理解が一層深まると思います。

鴨宮中三年 小林祐太

「バタフライ山田俊策社長の寄稿文」を読んで

バタフライ社が不良品問題を起こした時に監督は山田社長に対して「明日でも良いなんて言う生半可な気持ちで取り組んでいては問題は解決しない」と厳しく言ったという事に驚きました。

僕は何かやるうと思ってもすぐに行動することが出来ず「明日でいいや」と思うことがよくあります。

このため宿題も全て終わらず最後には雑になることが多かったのですが「今後はその日にやるようにする」と考えを変えたいと思いました。

「苦手を課題と考えることで人生が変わる」を読んで

この章の中には特に自分の心に突き刺さる言葉がありました。

それはホンダ創業者の本田宗一郎の言葉で「人間は真剣だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと泣き言ばかり」と言う言葉です。

僕は真剣な時と中途半端な時の差が激しくそれが学校の成績に表れています。今年が入試もあるのもっと真剣に勉強しなければいけないと思いました。

「一番で百万円より三番でも三百万円の方が良い」を読んで

この言葉で心に残ったのは一番を狙ったが二番だった。しかし昨年より売り上げが伸びている。もしもっと売り上げが増えれば三番でも良いと言う考えは新鮮でした。今後は順位だけではない考えも必要だと思いました。



鴨宮中三年 下間唯大

監督が会社のことを書いた文章でいくつかとても印象に残りました。「マルチ人間を目指す」の項では、監督はやることが多過ぎてやり残すことが多かったようです。

僕はこの文章の中で、やることが多いのが苦だったのではなくやり残すことが苦だったと思っていたことがすごいと思いました。

それはマルチ人間を目指していた監督にとつて、マルチ人間とは「不満、泣き言、愚痴、愚痴を言わない」「後悔が一切ない、ただやり遂げるだけだ」と言う考えを徹底していたからだと思います。

また、マルチ人間になつたら他人のことやその他の小さなことに神経を使うことが少なり、「仕事が難しい、忙しい、疲れる」といった感覚が無くなり、「答えを見つけることはまるでゲーム感覚のように楽しくなつた、だからアイディアが次から次に出て来た」という事にとっても驚きました。

僕は監督の逆パターンでやることが多いと、辛いと感じたり、やり残して後悔すること多くあります。それでも得意な学科で「難しい」「疲れる」と思うことなく、集中していて気がついたらいつの間にか終わっていたこともあります。

今後は卓球や勉強、その他のことで後悔をしたくないと思っています。そのためにマルチ人間になりたいと思います。

そして、監督のように様々なことに挑戦して成果を出していきたいと思っています。



鴨宮中三年 武内駿佑

「拡さんの寄稿文」を読んで、拡さんは中学生の頃、強制的な練習ではなく徹底的に褒められる練習で楽しく一生懸命練習できたという事です。僕も褒められるとうれしいのでその気持ちが良く分かります。

監督は全員に同じことを教えるのではなく、その人に合った戦型を教えてくれます。僕の場合も自分の特徴を生かした技術を教えてくれたのが分かります。

僕は自分のプレーがきれいではないと思うことがありますが、監督にアドバイスされながらやっていると少しずつ良くなり、褒められることで以前より確かに良くなっていることが実感できてとてもうれしくなります。

生沼さんの寄稿文で思ったことは生沼さんは苦手な技術を逆に得意な技術にしたと言うことです。

苦手なことを得意にするにはかなり練習の質を高くして長時間かけて集中してやつたと思います。そして高校でも大学でもそれを貫き通して試合に勝つたと言うのがすごいと思います。

僕は苦手なことはすぐにマイナス思考になつてしまふ積極的に練習できませんでした。しかし、これを読んでがんばれば苦手なことでも得意な技術にできることに気がついたので自信を持って頑張りたいと思います。



鴨宮中三年 浅利拓哉

「苦手を課題と考えることで人生は変わる」を読んで感想です。

人は「自分が勝てない相手のことを苦手と呼ぶ」と書いています。また、「人は自分の努力不足を正当化する傾向がある。それが愚痴と言いつてある」と書いてありますが、これらはどちらも自分のことだと思いました。

昨年のカデット県予選で一セット取った後、二セット目から攻めることが出来ずに負けました。その数ヶ月後に県新人戦でまた同じ選手と対戦して今度は0対3で負けました。僕は試合後に負けの原因を考えることもなく、やりにくいか苦手だと言っていました。

そして、本にはその対策として愚痴と言いつていないで努力すればほとんどのことは解決すると書いています。

今後は負け相手でも苦手だと思わずに、何で点を取られてるのかを考えて課題にして取り組みたいと思います。

「勝つためにはリスクを恐れるな」を読んだ感想です。

監督は県大会や全国大会で優勝している選手に勝つたり、ドイツの選手に勝つた時「肉を切らせて骨を絶つ」作戦や「思い切つて回り込み攻撃」で勝つた試合の事を書いています。

これを読んで監督は試合前に相手を研究して思い切つた作戦を立てたのだと思いました。僕はまだ相手の研究ができません。

僕も今後は強い相手と試合する時は作戦を立ててリスクを恐れずに戦いたいと思います。

